

# 資料1 岐阜県庁舎の再整備に関する県民意見募集結果

## 1 意見募集

○ 募集期間 … 平成27年9月1日～30日

○ 意見提出者 … 115人

- ◆住所 … 岐阜圏域：74%、西濃圏域：10%、中濃圏域：4%、東濃圏域：5%、  
飛騨圏域：4%、不明：3%
- ◆性別 … 男性：74%、女性：25%、不明：1%
- ◆年齢 … 20代：5%、30代：19%、40代：39%、50代：23%、  
60代：9%、70歳以上：3%、不明：2%

## 2 意見の内容と対応方針（案）

### (1) 大地震等の災害に対する高い耐震性・安全性の確保

- ⇒ 大地震後に補修をすることなく使用できる耐震強度（法定の1.5倍程度）を確保
- ・電気・機械室は2階以上に配置
  - ・電力・通信ルートを複数確保し、信頼性を向上

#### 【主な意見】

- ・震災に耐えられる庁舎にしてほしい。耐震より免震にしてほしい。
- ・洪水に備えて、非常電源、通信など機械設備関係は、上層階<sup>\*</sup>にすべき。  
※「平成27年9月関東・東北豪雨」により、茨城県常総市では、新庁舎が浸水し、1階屋外に設置していた非常用発電設備が使用不能となった。
- ・電力や通信回線の二重化が必要。

### (2) 危機管理拠点機能の充実

- ⇒ 常設災害対策本部室の拡充、食料・物資備蓄庫等の整備  
（基本構想資料2：「新庁舎の規模～危機管理機能の充実」）

#### 【主な意見】

- ・大規模な災害に備えて、危機管理をしっかりとってほしい。必要なスペースや設備など、必要なものは充実すべき。
- ・災害時の指揮拠点は、関係機関の職員が一堂に会して活動できる広さが必要。
- ・災害発生時等に仮眠等できる部屋や関係者の食料備蓄スペースの確保が大切。

### (3) 適切なセキュリティ対策の実施

⇒開放・制限ゾーンを明確にし、必要な入退室管理を実施

(基本構想資料4:「その他重要な機能・性能～セキュリティの確保」)

#### 【主な意見】

- ・誰でも容易に入れる現在の状況は見直し、一定のセキュリティを確保すべき。
- ・書類の紛失や情報漏えいが心配であり、相談スペースを下層階に設け、執務室には自由に入れないなどセキュリティ対策が必要。

### (4) 風格と親しみを併せ持つデザインの採用

⇒主要箇所に県産の木材・石材・タイル・和紙・家具類等を使用

#### 【主な意見】

- ・誇れるような県庁にすべき。県のランドマークとなるような建物が良い。
- ・ホールや応接室などの内装に県産の木やタイルなどを、イスやテーブルなどの木製品も県産のものを置くと良い。

### (5) 利便性の高い、開かれた庁舎づくり

⇒・エントランスホール、県民相談・情報公開スペース、展望ロビー・カフェなどを設置(基本構想資料2:「新庁舎の規模～県民サービス機能の充実」)

- ・利用者ニーズを踏まえ、保育所等の設置可能スペースの確保
- ・ユニバーサルデザインを考慮した誰もがわかりやすく使いやすい構造(シンプルな構造、多目的トイレの各階配置、分かりやすいサイン計画)

#### 【主な意見】

- ・県庁舎下層階に開放スペースや大規模会議室、誰もが利用できる食堂やコンビニ等を設置し、県民が入りやすい雰囲気のある庁舎とすべき。
- ・時間調整や休憩ができる、カフェのようなスペースを充実してほしい。
- ・展望室があると、人が来やすい開かれた県庁となる。
- ・県民への情報発信を充実させるための機能は必要。
- ・保育所や幼稚園、老人ホーム等を併設し、誰もが利用できるようにすると良い。
- ・現庁舎は玄関が1階なのか2階なのか分かりにくいので、分かりやすくしてほしい。
- ・車いす用トイレは各階に1つは必要。
- ・高齢者に優しい気くばりのある施設としてほしい。

## (6) 働きやすい執務環境の整備

- ⇒ ・空調のゾーニングによる適切な室温管理  
・所属間の壁を廃し、連携に優れたオープンフロア方式の採用検討

### 【主な意見】

- ・会議室や事務室等の柔軟な空調管理ができるようにしてほしい。
- ・最適な環境にすれば、行政の効率化が進み県民のためにもなる。

## (7) 再生可能エネルギー・資源の有効活用や省エネルギー・省資源対策の推進

- ⇒ ・吹抜け、庇、断熱ガラスなど構造上の工夫や、LED など高効率の設備機器の導入  
・太陽光発電、自然採光、自然通風、地熱利用、地下水・雨水等の活用等  
・ビルエネルギー管理システム導入による効率的なエネルギー使用  
(基本構想資料5：「その他重要な機能・性能～環境への配慮と長寿命化」)

### 【主な意見】

- ・庁舎内執務室、廊下が暗い。明るく、入りやすい雰囲気の庁舎とすべき。
- ・駐車場に電気自動車の充電設備を設置してはどうか。
- ・最新の省エネ設備で他県のモデルとなる建築物となると良い。
- ・地中熱利用空調や廃熱利用システムなど、エネルギー利用の効率化が必要。
- ・日照、風、地下水などを活用し、自らエネルギーをつくるゼロ・エネルギー・ビルとしてはどうか。

## (8) 長寿命な県庁舎づくり

- ⇒ ・各室の他用途への転換を想定した設計  
・構造体は、100年以上使用できる優れた耐久性を確保  
・構造体と設備・内装を分離し、メンテナンス・更新が容易な構造を採用  
(基本構想資料5：「その他重要な機能・性能～環境への配慮と長寿命化」)

### 【主な意見】

- ・時代のニーズに合った庁舎とするため、スペースは余裕を持って建築すべき。
- ・新庁舎は、長期間使用できる将来を見据えた建物にすべき。
- ・現在の設備を運用しながら更新するためのスペースの確保が必要。
- ・空間の用途変更や将来的な増築等への対応の容易さなどの他、空調など設備改修の容易さなどの観点からも検討すべき。